

光が丘高齢者相談センター 地域ケア個別会議 取組状況と課題

主催・日時・会場	主な参加者・数	テーマ	検討事項	検討結果	把握された課題
錦支所 平成28年9月28日(水) 14:00~16:00 北町地区区民館会議室	民生委員、老人会、介護支援専門員、消防署、福祉用具事業所、訪問介護、行政職員、高齢者相談センター本所、支所 計 18名	ひとり暮らし高齢者の火災予防について	・各参加者が自身の役割の中で、火災予防を考える。 ・高齢者と近隣住民・家主等が安心して暮らす権利、財産を守る権利について認識し、安心して暮らせる地域を考える。	・火災原因について、寝タバコやタバコの吸い殻をゴミ箱に捨ててしまうなどの認知症関連した事例があることが確認された。 ・市販の火災予防装置が付いたガステーブル、火災予防用品、電磁調理器の性能や実物の確認を行った。 ・認知症状が出現してからは、電磁調理器の使用方法が覚えられない方も多いため確認された。	・認知症症状が出現する前から、高齢者等に対し火災予防に関する啓発活動を行っていくことが必要である。 ・一般的に「予防」にはあまりお金をかけたくないと思っいる方が多いため、火災予防製品・設備の利用について、さらなる普及啓発が必要である。
練馬キングスガーデン支所 平成28年10月26日(水) 10:00~11:30 早宮地区区民館会議室	介護支援専門員、介護老人保健施設、家族会、訪問介護、高齢者相談センター本所、支所 計 9名	認知症介護者家族をささえることとは	・認知症の本人、家族を支えて行くとはどのようなことなのか、家族をサポートするとはどのようなことが必要かなどを話し合う。 ・介護者家族を支える社会資源情報を話し合う。	・男性介護者の場合、どのようにサポートするとよいのか話し合った。介護者の話、想いをじっくりと聞ける人、ボランティア(社会資源)がいればよいのではと多くの意見がでた。 ・家族会では介護者の傾聴で意見を押しつけないことを心がけている。認知症の状況を介護者が納得したり、これは仕方がないと介護者が思うまで時間をかけて傾聴していくとのことであった。 ・認知症の本人のサービスだけではなく介護者家族の支援が必要であることを再認識できた。	・本人だけではなく認知症の家族を介護している家族をサポートすることが必要であり、情報提供するだけではなく、直接支援につなげる必要がある。 ・認知症の家族介護者を支える社会資源の発掘や、それらの資源につなげるサポートが必要である。
田柄支所 平成28年7月26日(火) 13:30~15:00 田柄特別養護老人ホーム会議室	ご本人・家族、医療機関、民生委員、警察署、栄養士、訪問介護、福祉用具、訪問看護、通所介護、介護支援専門員、理学・作業療法士、行政職員、高齢者相談センター本所、支所 計 22名	高齢者や障がいを持った方が地域で暮らすための環境づくりについて	・1人で車いすで外出できる、住みよい地域にするには、どのような工夫が必要であるかを考える。	・電動車いすで外出している方は、外出時には段差などがあり、付き添いの人がいないと一人での外出は困難である。住みよい地域になる為にどんな工夫が必要かを確認した ・本人、関係者から、車いすで入れる店なのかを来店前にわかると助かる、車いすごと体重が計れる場所が地域に数か所あれば助かる、車いすに乗っていると歩きスマホの人や電動自転車でスピードをあげて走っている人が危ないと感じるなどの意見があった。	・住宅が密集している地域では、近所同士で挨拶をすることからはじめるなど、地域の挨拶運動の推進が必要である。 ・地域のマップを作成し、車いすトイレの場所や使い易さ、車いすで一人で入れる店舗の把握を進めることが必要である。
練馬高松園支所 平成28年7月15日(金) 14:00~15:30 光が丘区民センター会議室	区民、家族、介護支援専門員、訪問介護、通所介護、保健相談所、光が丘福祉事務所、高齢者相談センター本所支所 計15名	虐待のとりえ方について	・虐待の定義を知り、虐待とはどういうことなのかを理解する。 ・家族として虐待ととらえられてしまった時の心境を表出してもらい、関係者間で共有する。	・ご家族様の出席もあり実際に介護を行っていた方の生の声を聴くことができた。必死になればなるほど余裕がなくなり虐待と勘違いされる行動になってしまう状況が確認できた。 ・ケアマネジャーとしては、家族が虐待とっていないケースもあり、通報することを悩むケースも抱えていることが分かった。	・24時間、365日介護が続く中で、家族でも精神的に限界になる時もあり、家族支援が必要である。 ・虐待について考えるとき、表面的な事実だけにとらわれず家族やケアマネジャーの気持ちを考えるとともに、家族の想いに寄り添うことが必要である。
光が丘支所 平成28年10月12日(水) 14:00~16:00 光が丘区民センター会議室	店舗管理者、自治会、老人会、民生児童委員、福祉用具、主任介護支援専門員、介護支援専門員、高齢者相談センター本所、支所 計 13名	高齢者の買い物の現状から地域の問題を考える	・高齢者が安全に買い物を楽しむことは自立に繋がる重要なことであり、その為に地域で必要なことは何か、できることは何かを考える。	・当該事例について、地域の高齢者にとって買い物をすることが生きがいの一つという特性を改めて認識することができた。 ・商店側として店外でカート歩行器代わりに使うのは危険ということをPRする、ポスターを見やすい場所に掲示する、責任者が襷がけで広報活動を行うなどが検討された。 ・定年後、時間ができた世代の方に、高齢者の買いものを支援するボランティアを募るなどの取組が検討された。	・商店では、住民の多くが買い物カートを持ちかえってしまい、建物内に持ち込まれると回収が困難になる。そのような状況を変えるため、地域住民のボランティアを募り買い物マナーに関する啓発などの取組が必要である。 ・買い物カートの屋外での使用は不安定で危険がある。福祉用具を利用する事等の周知の不足や、安全な福祉用具を利用する支援に関わる情報提供の実施が必要である。
高松支所 平成28年7月27日(水) 14:00~15:30 土支田中央地域集会所	ご家族、近隣住民、民生委員、介護支援専門員、有料老人ホーム職員、通所介護、配食サービス、高齢者相談センター本所、支所 計17名	認知症になっても、馴染の地域で暮らし続けるために ～今後の取り組みと、地域連携の在り方について～	・認知症の進行に伴う、地域での見守り体制や地域ニーズについて検討する。 ・地域ニーズを踏まえ、必要な連携方法の明確化を図る。	・問題の共通認識を図ることができ、介護保険サービス以外の、地域住民や、介護施設等含めた地域資源における今後の支援体制を整える機会となった。 ・介護や福祉など、支所やデイサービス、配食サービスなど様々な資源があることは分かったが、情報が散在していることが確認された。 ・デイサービスや有料老人ホームなど、地域開放や地域に向けた活動等があることが分かったが、入りづらいという意見があった。	・生活圏域の中で、認知症の有無に関わらず気軽に立ち寄れる場の発掘など、住民ニーズを探っていく必要がある。 ・介護や認知症に関する住民に向けた情報発信方法を検討する必要がある。 ・当該地域による地域ケア個別会議を重ね、地域課題や必要な資源、システムをより明確にする必要があるとともに、高齢者施策について、様々な世代を巻き込む必要がある。

<p>第3 育秀苑支所 平成28年9月27日(火) 14:00~15:30 土支田地域集会所会議室</p>	<p>民生委員、介護サービス事業所、介護支援専門員、高齢者相談センター本所、支所 計 11名</p>	<p>地域での顔が見える関係づくりを構築していく過程について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民との接点を民生委員との関わりを通し、点から線へ広げる方法について検討する。 ・ケアマネとの連携により、地域づくりの課題の共有化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当ケアマネージャーから、本人、家族の意向・支援計画、地域との連携について情報提供があった。 ・片付け事業者から過去の事例（片付けの内容・家の内外の状況）について紹介された。 ・今後、社会とのつながりを再構築するために必要な、近隣住民との関係や協力体制について、関係者間で検討ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の意向により目標をどのように設定するかと同時に、近隣の不安を取り除くという目的も同時に配慮する必要がある。 ・利用者の意向を確認しつつ、家族、ケアマネージャー、近隣住民が情報共有し連携できる体制が必要である。
---	--	------------------------------------	---	--	--